

班	講 評
36	<p>より実務的な課題であったため、受講生は頭を悩ませたと思われる。実務をやっている人間からすれば典型論点であるため、受講生の論文の内容の稚秀もわかりやすいと思われる。概略論のみ記載されたものにはどうしても低めの点数となる傾向があった。</p> <p>・重要性の基準の変更→期末日に近い時期での手続については記載があるが、それ以外の論点にふれているか否かで点差がついている。</p> <p>・不正の動機や期中の監査にふれている論文は良かった。</p>
37	<p>・引用多く、実質的な内容が乏しいものがある。</p> <p>・論理展開が不十分であったり、記述が抽象的で、問われている内容に対する回答が不十分なものも散見された。</p> <p>本テーマを論じるに当たっては、どのような会計監査上の論点があるかを、多角的視点から洗い出し、その中でも重要と考えられるものについて深度ある検討を行うことが肝要である。インチャージとして求められるのは正にそのような能力である。今回は、作成者により、論点設定の広狭、特定論点の検討深度にバラつきが見られた印象である。</p>
38	<p>重要性の基準値の変更、チームメンバーへの連絡、不正リスク対応等、大幅な下方修正への対応として求められる手続をきちんと挙げられている研究が多く、総じてしっかりできていたように思います。</p> <p>点差がつく要因としては、何故、その手続が必要なのかといった背景についての深掘りの程度がありました。</p> <p>監査現場でも、何のためにその手続を実施するのかを考えて取り組むように言われているかと思しますので、みなさん意識はされているのだと思いますが、引き続き、手続の意図についての理解を深め、応用力のある監査を実施できるよう努めていただければと思います。</p> <p>業績の下方修正の伴う監査計画の修正を、重要性の基準の変更や不正対応等の切り口で整理できていればいいかと思えます。</p>
39	<p>監査上の重要性の引下げについては、皆触れていたものの、それ以上考察できていた答案が少なかったのが残念な点である。監査上の重要性以外にも不正リスクが高まっている点及びそれに対応するためにどのような監査計画の策定が必要か、また期末付近にこうした状況が検出された中で、インチャージとして時間、人員等の確保にも留意しなければならない点など、インチャージの経験がない中で難しかったとは思いますが論じてほしかったポイントである。</p> <p>インチャージであることが前提の問題であり、監査計画の定義等で字数を埋めてしまうことは非常に勿体ないと感じました。</p> <p>重要性の基準値等の各論は現場の具体的作業としては当然必要なのですが、異常事態であるという全体的な視点から考察の幅を広げて欲しかったところです。</p> <p>全体としては、テーマが分かりやすく、よく書けていたように思います。</p>

	<p>テーマに記載の通り、3 月決算の上場会社において、2 月に本決算数値の着地見込みにつき大幅な下方修正が必要である、というある程度の前提が置かれていたため、この前提に沿って、自身の考えを中心に論述展開することが求められていました。しかしながら、実際にインチャージ経験がほとんどないことから、どのように論述展開すればいいか、適切に理解出来ておらず、監基法等において記載されている、定義等の説明が論述の大半を占める論文が多く、最も重要な点であった、実際にどのような対応を行うのかといった点につき、十分に論述展開が出来ている論文が少なかったです。プロフェッショナルとして、クライアント等に対して、自身の考えを述べることは重要なスキルの一つでもありますので、今後は、よりテーマの意図を汲み取り、ご自身の考えを論述出来るように心掛けて頂ければと思います。</p>
40	<p>今回の課題は、監査上の対応を問う事例問題でした。事例問題における作問者の意図は、実務における対応を論述することにあるのですが、監査基準や委員会報告書等の文言を引用している記述が多く、具体的な対応まで踏み込んでいない論述が散見されました。テーマから作問者がどういった意図をもって出題しているのかを推敲することも重要ですので、今後の課題研究にあたって留意してください。</p> <p>また、監査手続の記載にあたっては、当該手続がどういったリスクやアサーションに対するものであるかを明瞭に記載するよう心掛けてください。実務においても、監査調書作成にあたって必須のスキルになりますので、意識して取り組む姿勢を期待します。</p>
	<p>引用箇所引用符「」が用いられていない事例などが見受けられますので、形式面のルールを今一度確認するようにしてください。</p> <p>全体的に、監査計画とは、リスク評価とは、という説明が長い論文が多くありましたが、出題テーマの本筋ではありません。</p> <p>リスクが上昇した場合に、それに対応しなければならないのは当然であり、実務においては、「どのように対応するか」を決める必要があります。出題の意図も、そこを考察してもらいたいという点にあります。そのような観点から、主任として具体的に何をどうするかを自分なりに考えて記述していた論文の点数を高くしています。</p>
68	<p>思いついた1つの論点に飛びつくのではなく、影響のある部分を洗い出して、何を書くべきかを考える習慣をつけるべきと感じた答案が多かった。</p>